

為替週間展望 = ドル円は上値の重く、105円の節目を試す可能性も

[3月9日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		3月2日～3月6日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	107.46	108.58(2)	105.76(6)	105.90	-1.99
ユーロ・ドル	1.1007	1.1249(6)	1.1003(2)	1.1226	+0.0200

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	20,749.75	-393.21	日本10年債利回り	-0.123	+0.030
ダウ平均株価	26,121.28	+711.92	米10年債利回り	0.912	-0.237

=====

<来週の主要経済統計等>

- 7日 中国2月貿易収支
- 9日 日本第4四半期国内総生産(GDP)2次速報、日本1月経常収支
スイス2月雇用統計
独1月貿易収支、独1月経常収支
独1月鉱工業生産指数
- 10日 中国2月消費者物価指数、中国2月生産者物価指数
ユーロ圏第4四半期域内総生産(GDP)確報値
- 11日 英1月鉱工業生産指数、英1月製造業生産指数、英1月貿易収支
米MBA住宅ローン申請件数
米2月消費者物価指数
米2月財政収支
- 12日 ユーロ圏1月鉱工業生産指数
米2月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数
欧州中央銀行(ECB)政策金利
ラガルド総裁記者会見
- 13日 独2月消費者物価指数確報値
米2月輸入価格指数
米3月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】リスク回避の円買いモードとなっており、新型コロナウイルス関連の報道や日本、米国、中国の株価動向や米長期金利の動きを眺めながら、ドル円は上値の重い展開になりそうとした。ユーロドルはこれまでの下げトレンドの反動などから堅調に推移するとした。

【新型コロナウイルスの影響は続く】

2月29日に発表された中国の2月の製造業購買担当者景気指数(PMI)は35.7となり、事前予想の45.0や前回の50.0を大きく下回った。非製造業PMIも29.6となり、予想の50.5や前回の54.1を大きく下回った。新型コロナウイルスの感染拡大を封じ込めるための動きから、産業活動に顕著な悪化が見られる事態となっている。

新型コロナウイルスの感染拡大への警戒感から各国の株価は大きく荒れている。NYダウは2月24～28日の1週間での下げ幅は3500ドル超と暴落した。その後も3月2日に1293ドル高、3日に785ドル安、4日に1173ドル高、5日に969ドル安と連日で大荒れの展開となっている。日経平均も2月24～28日の週に220

0円超の急落となり、3月に入ってからは安値圏で下値を探る展開を続けている。

各国の株安の動きは利下げ催促相場の様相を呈している。そうした中、2月28日に米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長は「経済を支えるために行動する」との緊急声明を発表した。日銀の黒田総裁は3月2日の午前中に「今後の動向を注視していく。適切な金融市場調節や資産買入れの実施を通じて、潤沢な資金供給と金融市場の安定確保に努めていく方針」との談話を発表した。

次回3月17～18日の米連邦公開市場委員会（FOMC）で利下げに動くとの見方が広がる中、米連邦準備制度理事会（FRB）は3日に臨時のFOMCを開催して政策金利の0.5%の引き下げを決定した。なお、これに先立ち、3日に7カ国財務相・中央銀行総裁の緊急電話会談が行われて、新型コロナウイルスの感染拡大による景気悪化に対応するため「あらゆる手段を用いる」方針を確認した。

FRBは緊急利下げに動いたばかりだが、3月17～18日のFOMCでは0.50%の追加利下げとの見方が広がっている。CME FEDウォッチでは次回FOMCでの0.50%の利下げ確率は98%前後まで上昇している。

リスク回避の動きから米国債が買われて（利回りは低下）おり、米10年物国債利回りは低下を続けている。利回りは2月28日の1.148%前後から3月3日には1%の大台を割り込んだ。その後、6日には0.90%を割り込む水準まで低下している。5日の海外市場でドル円は一時106円を割り込み、いったん106円台を回復した後、6日に再び105円台に沈んでいる。

米国での感染拡大の動きからドル売りの動きが続いている。世界的なリスク回避の動きや米長期金利の低下はドル円には圧迫要因となる。日米など各国の株安や米長期金利の低下は円買いにつながりやすく、ドル円はテクニカル面のリバウンドを除くと上昇しにくいとみられる。ドル円は引き続き上値の重い展開となり、下げが加速すると105円の節目を試す可能性も出てきそう。ドル円の目先の予想レンジは、104.00～107.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、9日に日本第4四半期国内総生産（GDP）2次速報、日本1月経常収支、11日に米MBA住宅ローン申請件数、米2月消費者物価指数、米2月財政収支、12日に米2月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数、13日に独2月消費者物価指数確報値、米2月輸入価格指数、米3月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは高値圏でもみ合いか】

新型コロナウイルスの感染拡大による景気悪化に対応するため、各国の中央銀行は協動的な利下げに動いている。3日に豪中銀（RBA）は政策金利を0.75%から0.50%に利下げた。FRBも3日に臨時のFOMCで0.50%の利下げに踏み切った。4日にはカナダ中銀が政策金利を1.75%から1.25%に0.50%利下げしている。

そうした中、12日の欧州中央銀行（ECB）理事会での対応が注目される。ECBのラガルド総裁は2日に新型コロナウイルスの感染拡大に対して景気の下支えのために「適切に対応する」との声明を発表した。各国が利下げに動いていることもあり、ECBも利下げ、あるいは量的緩和の拡充といった対策を迫られるとみられる。

ユーロドルは米長期金利の低下によるドル売りの動きもあって、1.12ドル台半ばまで上昇している。値からの戻りが急だったことに加えて、ECBによる緩和策への思惑もあり、一段とユーロ買いが続くかは不透明な状況となっている。こうした中、ユーロドルは高値圏でもみ合いが続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1100～1.1300ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、7日に中国2月貿易収支、9日にスイス2月雇用統計、独1月貿易収支、独1月経常収支、独1月鉱工業生産指数、10日に中国

2月消費者物価指数、中国2月生産者物価指数、ユーロ圏第4四半期域内総生産（GDP）確報値、11日に英1月鉱工業生産指数、英1月製造業生産指数、英1月貿易収支、12日にユーロ圏1月鉱工業生産指数、欧州中央銀行（ECB）政策金利、ラガルド総裁記者会見、13日に独2月消費者物価指数確報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。